

教員向け体験活動研修会～宿泊学習指導にちょっと自信をつける会～

1 趣旨

- 学校教員や保育士などの子供の育成に関わる指導者が人間関係づくりプログラムや野外炊飯などを体験することを通して、それぞれの活動の意義について考える。
- 野外活動を軸とした集団宿泊研修指導について、安全面や環境保全など多様な観点に基づく指導上の留意点を学ぶ。

2 事業の概要

(1) 期間

令和6年8月19日（月）～8月20日（火）＜1泊2日＞

(2) 会場

国立三瓶青少年交流の家

(3) 対象

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、義務教育学校及び特別支援学校の教諭、養護教諭、常勤講師等、保育所の保育士

(4) 参加者（募集25人程度）

9人（うち島根県教員採用2年目フォローアップ研修対象者7人）

内訳 小学校教諭5人、中学校教諭2人、特別支援学校教諭2人。

※社会教育実習生3人も事業に参加した。

(5) 後援

島根県教育委員会

(6) 日程・研修内容

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|-------|-------------------|---|------|--------------------------------------|--|-------|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-------|------------|-------|-------|
| 8/19 (月) | 9:30 | 10:00 | 10:30 | | 12:00 | | 13:00 | 15:20 | | 17:10 | 18:30 | 19:00 | 20:15 | 21:00 | 22:30 |
| | 受付・入所 | オリエンテーション 開会行事 | SAP① ～人間関係づくりプログラム～ ☆アイスブレイクやコミュニケーションの活動 | | 昼食 | SAP② ～人間関係づくりプログラム～ ☆課題解決の活動 ☆SAPで大切にしていることについて | | 振り返り | 夕食・休憩 夕べのつどい | キャンドルのつどい 準備 | キャンドルのつどい 体験 | 入浴 | 情報交換会・就寝準備 | 就寝 | |
| 8/20 (火) | 6:30 | 7:00 | 7:40 | 8:40 | 9:00 | | 13:30 | | 14:30 | 15:00 | | | | | |
| | 起床 | 朝のつどい 清掃 | 朝食 | 退所点検 | 野外炊飯 (ビーフカレー) ～人間関係づくりに焦点をあてて～ | | 振り返り | 閉会行事 | 解散 | | | | | | |

3 事業の特色

本事業は、教員が体験活動について学ぶ研修の機会を確保するため、教員免許更新講習を廃止した令和4年度に実施してから、今年度で3回目の開催となる。

今年度は、「人間関係づくりプログラム SAP (Sanbe Adventure Program)」及び「野外炊飯」を本事業のメインプログラムとして設定し、人間関係づくりに視点を置いた宿泊学習指導の在り方について参加者同士で深め合うことができるようにするため、以下の点に留意して企画した。

(1) プログラムデザインと企画のポイント

① 当所を利用する学校の宿泊研修で実際に行うことが多い活動プログラムを中心とした内容構成

学校の宿泊学習において人間関係づくりプログラム SAP、キャンドルのつどい、野外炊飯（ビーフカレー）を実施することが多いことを踏まえ、本研修会では、これらのプログラムを中心に行うこととした。本事業には、多くの採用2年目若手教員が参加する傾向にある。そういった若手教員は、宿泊学習指導の経験が少なく、宿泊学習指導について不安を感じているのではないかと考え、当所において教員が実施することが多い体験活動を実際に行うことにより、当所での宿泊学習のイメージをもてるようにした。

② 「人間関係づくり」を軸とした活動プログラムの関連づけ

これまで本事業を2回実施してきたが、これまでの参加者の感想に「もっとSAPを体験したい。」とあったことを踏まえ、令和6年度も令和5年度を踏襲してSAPを午前、午後に分けて実施した。これは、研修会の目的には掲げていないものの、SAPというプログラムが参加者交流、教員のネットワーク形成を促し、校種や勤務地域を超えたつながりづくりに効果的であると考えたためである。

また、小学校学習指導要領特別活動編には、遠足・集団宿泊的行事のねらいについて以下のように記載されている。

遠足・集団宿泊的行事のねらいは、次のとおり考えられる。

校外の豊かな自然や文化に触れる体験を通して、学校における学習を充実発展させる。また、校外における集団宿泊を通して、教師と児童、児童相互の人的な触れ合いを深め、楽しい思い出をつくる。さらに、集団生活を通して、基本的な生活習慣や公衆道徳などについての体験を積み、集団生活のあり方について考え、実践し、互いを思いやり、共に協力し合ったりするなどのよりよい人間関係を形成しようとする態度を養う。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編 第3章 第4節の2の(4)の①遠足・集団宿泊的行事のねらいと内容

このように、児童生徒の指導の根拠となる学習指導要領によれば、自然や文化に触れることに価値があるが、体験を通してよりよい人間関係を形成することにつながることにこそ、宿泊学習の目的があると捉えている。だからこそ宿泊学習で行う各活動プログラムが児童にとって感動があり、楽しい思い出となるものになることはもちろん、よりよい人間関係を形成するために有効なものになるようにする必要がある。したがって、本事業に参加する教員自身が人間関係づくりの観点から各活動プログラムの価値に気付けるようにするため、本事業を「人間関係づくり」を軸とする研修会として計画した。また、2日目に行う野外炊飯活動は、単なる活動体験に終止することなく、人間関係づくりを意識できるものにするため、人間関係づくりに焦点を当てた活動プログラムとした。

③ 野外炊飯活動を通じた人間関係づくりプログラム

野外炊飯活動は、その活動を通じた人間関係づくりプログラムとするため、今回「SAP 野外炊飯」と題して行った。ここでいう「SAP」には、以下の意味を込めている。

- S・・・Sustainable（持続可能な、環境に配慮する）
- A・・・Act（役割演技、役割をミッション化）
- P・・・Person（人間関係づくり）

今回の野外炊飯活動では、環境保全を意識するとともに、グループ内で班員それぞれが役割演技を行いながら関わり合うことにより、人間関係の変容を目指した。以下が活動の詳細である。

◎ Sustainable について

事業運営者（指導者）は、はじめに使用できる道具や水に制限があることのみ説明し、それ以外のことは各班で話し合いながら自らでどのようなことをするか選択できるようにした。以下に指導者が説明したことと各班で行ったことを記載している。

水の使用

- ・水の使用量を制限しながら活動を行う。3つのポリタンクに水をため、始まりから終わりまでどの班も計60ℓの水を使用して調理、片付けを行う。

- ・たらいを準備し、一度に水を捨てないように気を付けながら行う。
- ・いらないチラシを置いておき、洗い物をするときなどに活用できるようにする。

火の使用

- ・使用できるマッチは、班で4本のみとする。
- ・新聞紙は、1日分のみとする。
- ・薪は、1束のみとする。
- ・落ちていた自然物を燃料として使用する。

その他

- ・作ったものは、責任を持って食べる。
- ・炊飯場にゴミが落ちていた場合は、進んで拾って捨てる。

◎Act・Personについて

ミッションカードについて

人間関係づくりの視点を取り入れた野外炊飯にするため、小学生が行う野外炊飯活動時によく起こりえるシチュエーションをヒントにミッションカードを導入して活動した。このミッションカードは、「班の仲間に積極的に感謝を伝える」や「班の仲間に黙ってトイレに行く」というような班の人間関係を円滑又は阻害させるような役割演技の指令となる。このカードを用いることにより、参加者が子どもたちの心情を疑似体験するとともに、様々な事象を経験したグループ内で参加者同士の人間関係に深まりが見られるのではないかと仮定して実施した。

④ 体験者視点で活動する時間と指導者視点で協議する時間の明確化

参加者には、まず、体験者の視点で活動に取り組むこと、活動後の振り返りの時間には指導者視点で活動の教育的価値や指導上の留意点について協議することを伝えた。また、ワークシートを活動前にあらかじめ配布しておくことにより、活動中に適宜、気付きを記録できるようにした。そして、初日午後のSAP②と、二日目午後に振り返りの時間を設定することにより、参加者が目的意識をもって研修に臨むことができるようにした。

⑤ 日々の教育実践に生かせる研修成果物（おみやげ）の配布

職場で必要に応じて見返すなど、日々の教育実践に役立てることができるようにするため、参加者が感じたこと、考えたこと、協議したことなどを記録したワークシートを研修成果物（おみやげ）として持ち帰ってもらうこととした。そこで、参加者に事前に意図を伝え、承諾を得た上で、ワークシートをコピーして冊子にまとめ、配布した。

(2) 運営のポイント

① 班編成の工夫

参加者同士の活発な対話が生まれ、学びを深めることができるようにするため、勤務校種、地域、経験年数を考慮した活動班を編成した。

② 職員の役割分担

SAPでは、職員を二人体制にし、ファシリテーター役と参加者の観察役を交互に担当して協議しながら、より参加者の実態に応じたアクティビティを実施できるようにした。

また、夜の活動（キャンドルのつどい）は、この分野についての豊富な経験と知識をもつ職員に進行を依頼し、職員のもつ強みを生かすことで研修内容の充実を図った。

(3) 広報のポイント

① 島根県の教職員研修への登録

昨年度同様に島根県教育センターと連携し、島根県内の採用2年目の教員対象のフォローアップ研修に登録することにより、県内の教職員の目に触れる機会が少しでも多くなるようにした。

② 広島県4市町への広報

昨年度同様に広島県にも広報範囲を拡大し、特に当所の利用が多い安芸高田市と庄原市、また、近隣である北広島町、三次市の4市町の教育委員会に対して各学校等にメールで情報提供するように協力を依頼した。

4 参加者へのアンケート結果及び振り返りの記述

(1) アンケートの集計

(%)

| | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 |
|-------|----|------|------|----|
| 事業全体 | 88 | 12 | 0 | 0 |
| プログラム | 88 | 12 | 0 | 0 |
| 運営 | 78 | 22 | 0 | 0 |
| 職員の対応 | 88 | 12 | 0 | 0 |

(2) 参加者の声

体験による気づきや学び

- SAP や野外炊飯では体験と振り返りがセットになっていてよかった。
- 自身が生徒のときとは違う気持ちで、かつ生徒目線で活動に参加することができた。
- 様々な活動を通じて、体験者の視点から指導の意義について考えることができた。
- 自分自身で体験をすることが大事であると実感した。生徒にも学びを発見する喜びを感じ取ってもらえるような教員になりたい。

参加者交流に関するもの

- 異校種の先生とも交流でき、貴重な機会だった。
- 若い先生たちと交流でき刺激のある楽しい2日間を過ごすことができた。

SAP の振り返り

- 自分自身のことを集団の中で出したり、他者のことを知ったりするきっかけづくりになると感じた。
- 勝ち負けや嬉しい、悔しいなどの感情を出しやすい場だと感じた。
- 自己肯定感の高まりやコミュニケーション能力の向上など子ども自身の成長を感じられる活動であると思った。
- 同じ目標に向かって取り組むことで、易しい声掛けや雰囲気づくりを作ることができそう。
- 主体的に学ぶ、思考する姿勢が養われると思った。
- 仲間づくり、ふだんの学級経営でのレクリエーションとして活用したい。

野外炊飯の振り返り

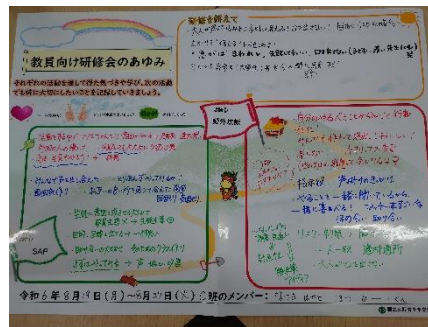
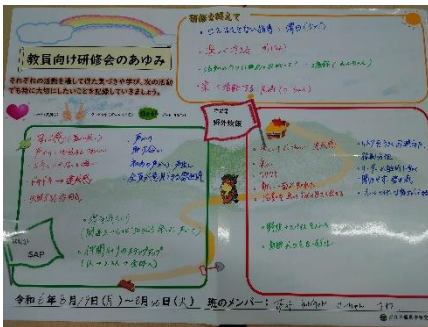
- 子供たちの役割分担を明確にし、グループ内のプラスの声かけを増やしたり指導者の過剰な介入を減らしたりすることで、子供たちの力で作り上げる活動にするとよいと感じた。
- 工夫をすることで、薪や水の使用量を制限することができると実感できた。
- 使用できるよう量を制限する工夫を考えることでアイデアを絞り出す良い経験ができた。
- その場で役割を決めたり、任せられた仕事をこなしたり分からないことは質問したりと自分のことも相手とのことも求められる資質の多い活動だと感じた。だからこそ全員が活動に参加するためには、前段階で SAP などの活動を行い、ある程度の関係性が必要だと感じた。

5 成果と課題

《成 果》

- プログラム内容の満足度は非常に高く、参加教員らのニーズにあった研修会にすることができた。
- 上記の参加者の声からも分かるように、体験者として体験する時間と、指導者視点で協議する時間を明確に分けてプログラムをデザインすることにより、参加教員らが体験活動の魅力を体感するとともに、安全や環境保全など多様な観点に基づく指導上の留意点についての理解を深めたり、人間関係づくりにおける子供に育みたい心情や力といった観点から教育的価値を見いだしたりすることができた。
- 人間関係づくりに視点を置いた「SAP」や「野外炊飯」を組み合わせることにより、一つ一つのプログラムが独立するのではなく、SAP で育んだ人間関係づくりを野外炊飯時にも生かすといった関連性を持たせることができ、人間関係づくりに視点を置いたプログラムの教育的価値について考えることができた。

- 野外炊飯では、水の使用を制限するなど一人一人が環境保全に意識を向けることができたともに、使用を制限するという共通の目標があることにより、班の中でより協力し合う姿が見られた。
- また、SAP や野外炊飯後の振り返りでは体験学習サイクルを回すことをねらいとした振り返りシートを用いることにより、参加教員自身が活動ごとの学びを結びつけながら活動の振り返りを行うことができた。



体験学習サイクルを回すことをねらいとしたワーク

《課題》

- 今年度は参加者が9人であり、昨年度の参加者の半数となった。当所を利用する学校は主に小学校であり、来年度の広報活動は従来の幼稚園から高等学校までの教員等や保育所等の保育施設職員への周知を継続するとともに、小学校教員をターゲットに重点的に行いたい。学校利用が増える1学期の5月頃には、当所を利用する教員に直接チラシを配布したりポスターを館内掲示したりするなど情報開示を早める必要がある。また、開催日を2学期が近づいたお盆明けにはではなく、8月上旬に設定するなど、より参加しやすい日にちとすることを検討する必要がある。



SAPの様子①



SAPの様子②



SAPの振り返りの様子



キャンドルのつどいの様子



野外炊飯活動実施時の安全管理



野外炊飯の様子①



野外炊飯の様子②



野外炊飯の様子③



野外炊飯の振り返りの様子



事業参加者

(担当：企画指導専門職付 中谷 康希)